

工 學 士 山 本 峰 雄⁽¹⁾

4. 新テムペルホーフ航空港

杏の花もフリーダの花も既に散り果て、伯林は若葉の期節となつて連日晴天が続いて、菩提樹の梢に風薫り長い陰鬱な冬から解放された喜が街行く人々の足どりに見られた。

豫て労働戦線のH女史に依頼してあつた新テムペルホーフ航空港の工事と國營自動車道路の工事場視察の許可が下りたので、見學の同邦数人と打合せて6月5日と定めた。

5日の朝は相變らず一天の雲もない晴天で今日の恵まれた天候に心勇む思で、市營バスでウンターデンリンデンの入口ブランデンブルグア右側の土木監督局に集合したのは午前8時半であつた。我々7人の同邦と監督局から案内役について行く5人の技師の爲に、パンツのオープンの大形車3臺がハーケンクロイツのマークを浮かした旗を立て、待つて居た。

H女史の紹介で型の如く握手を交して車に乘込み先頭の技師の合圖で出發する。右折してウイヘルム街を南下して新テムペルホーフ航空港の工事場に着いたのは9時、直径250米の環状廣場で車を降りて説明を聞く。環状廣場左右を圍む4階建ての建物は四圍の民家を取拂つて既に外廓が出来上り新獨逸獨特の清淨簡素な黄色の貝殻石灰凝灰岩張りの壁と白色石灰石の窓飾りとの調和感の與ゝる雰圍氣は未來の伯林の市街を想像させるに充分である。環状廣場と此の直線で構成された建

(1) 航空研究所

物は未來の伯林の特徴である事は獨逸人から度々聞かされ又映畫でも其都市計畫の模様を知つて居るし、又伯林市の一部特にウイヘルマースドルフ西部に此の様式の街路が一部完成して居るが、此處に来て説明を聞いて見ると其の清淨莊嚴な事に氣がつくのである。華かな裝飾を施した曲線の多い建物とはおよそ正反對で、見方に依れば無味乾燥とも思はれる此の建築様式も、一つの街路としてまとまると或る獨特の清淨莊嚴な味が出て来る。

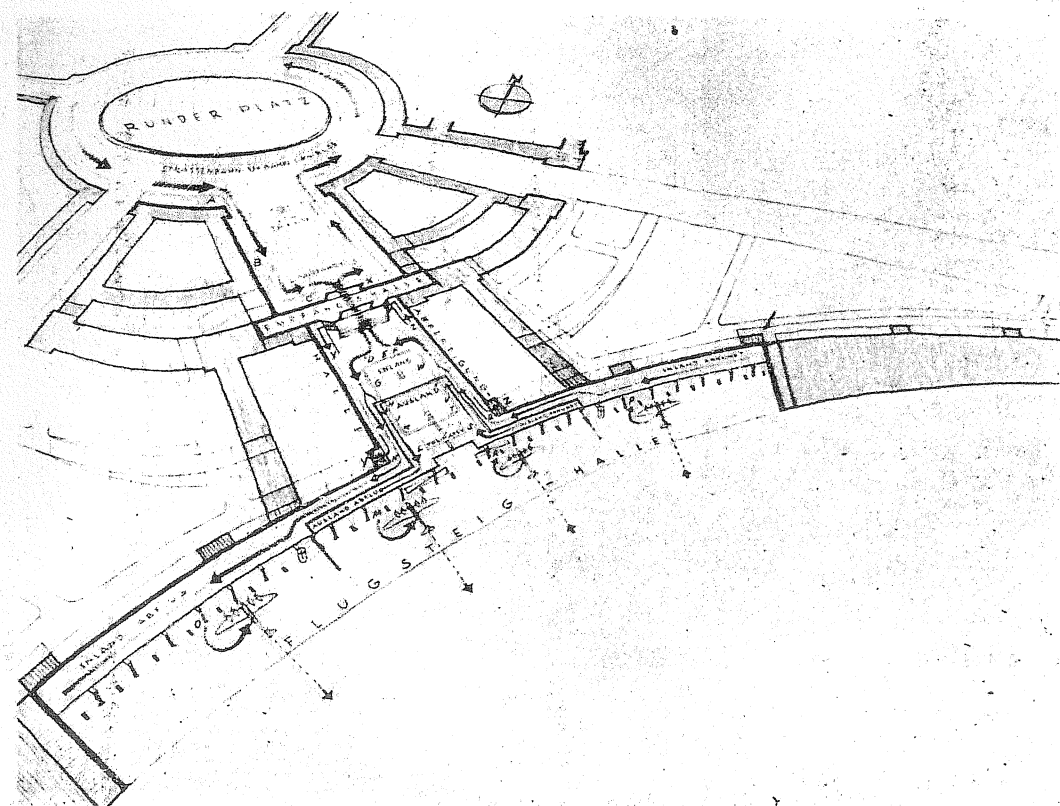
今出来上つて居る之等の建物は各國の航空輸送會社の事務所となり、階下の道路に面する部分は商店となるとの話であつた。

環状廣場の中央には直径65米の泉水を設け之より西方約500米離れたヴィクトリヤ公園内の標高60米の高臺クロイツベルグから水を引いて噴水を設けるとの事であつた。

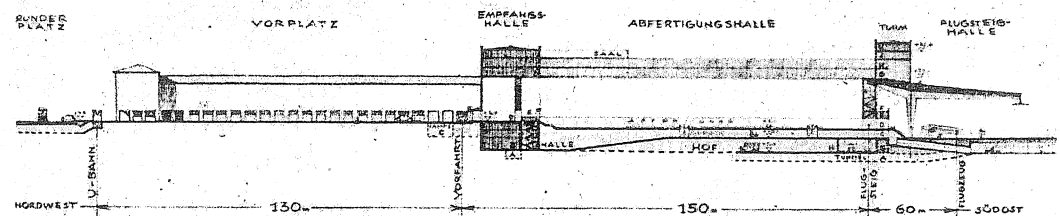
環状廣場の西南方は巾80米奥行90米の矩形前庭に通じ其の左右は3階建ての建物を繞らし、左は貨物受付所右は航空郵便局の事務室が設けられ地階はアーケードを設けて賣店を收容する豫定であるとの事で工事の人足が入つて内部の仕上げを行つて居る。

尙此の廣場は全て花崗岩で敷詰めてタクシー駐車場、自動車發着場に使用するとする事である。

矩形廣場のつつきは高さ30米、7階建ての本館を控へて居り、此處が旅客の入口となり、全建築の中心を形成して居る。此の建物の中には長さ70米の旅客受付廣間を持つて居る。此の廣間を通つて高さ2.5米の階段を下ると、此の飛行場



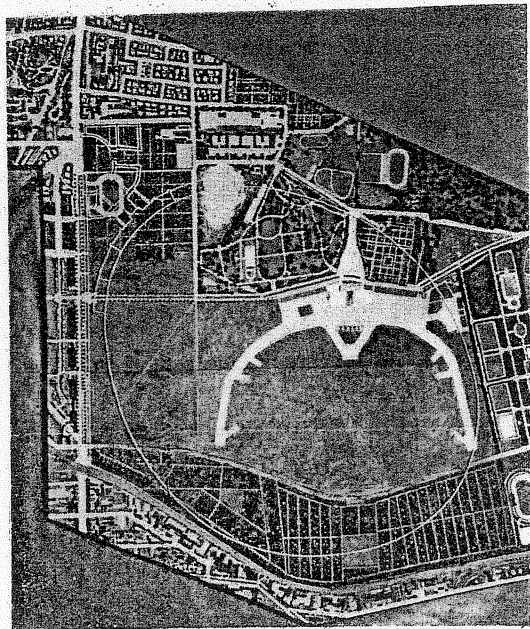
第1圖 新テムペルホーフ航空港主要建築物の設計圖



第2圖 主建築物中央断面、左より矩形廣場、旅客入口、税關検査所廣間、乗降プラットホーム

の豪華版である税關検査所の廣間に入る。此處は旅客切符の出札、手荷物の税關検査、旅券検査、旅客現金持出検査等を行ふ所で、長さ100米、巾50米、高さ19米の此の大ホールは獨逸の何處の停車場のホールにも見られない位の壯大なものであつて、仰ぎ見れば巾32米を距て、左右に數本の巨大な柱が立つて居て、その上端はローラーに依つて此の大ホールの上部構造の重みを支へてあ

る。此の大廣間の下は天井の高さ9米の地下貨物室となつて居て、其の左には一般貨物取扱所、右には郵便物取扱所の廣場となつて居り、外部からの貨物郵便物は夫々左右から別々に入つて来て、取扱所を経て貨物室から電動車に乘せられて斜面を上つて飛行場のプラットホームに入り、此處で飛行機に積込まれる様になつて居る。



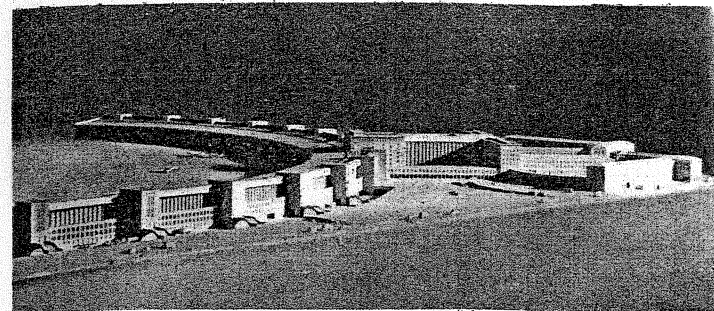
第3圖 新舊テムベルホーフ航空港附近の平面圖、中央の白い部分が現在の航空港の建物、外側の白線が新飛行場の外廓

又税関検査所の大廣間の入口と反対側の飛行場に面した方の上部には中央食堂、テラス、屋上庭園等があつて旅客は飛行場を眺め乍ら食事が攝れる様になつて居る。又此の飛行場の見學者、訪問者も大廣間の左右、巨大な支柱の外側に設けられた廊下を通つて、大廣間の内部を見て廣間の後方からエレベーターで中央食堂に行ける様になつて居る。更に此の飛行場完成の曉に輻輳する空の交通を整理する爲のコントロールタワーは其の前面中央の一部に置かれて居る。

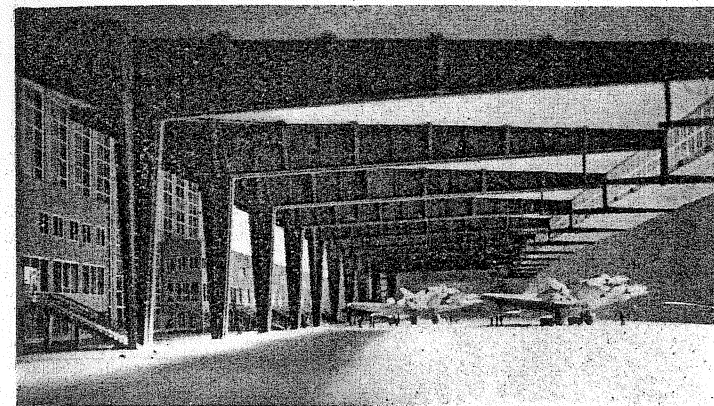
税関検査所大廣間を見てから我々は此の中央食堂となる廣間に入り此處で建設事務所の技師からテムベルホーフ飛行場の全體の施設に就いて説明を聞いた。此處には飛行場全體の大きな模型が中央に飾られ、壁間には平面圖が張出されてあり中央食堂の外側の屋上には飛行場建物の一部を五分の一程度に作つた木製の模型が置いてあつた。此の模型に依つて建物の外觀や色彩、窓の配置等の研究を行つて居ると云ふ事であつた。

大廣間の巨大な柱の列の間の中央部は二つに分れて居る。入口に近い半分は國內航空路旅客取扱所であり、飛行場に近い半分は外國行旅客の取扱所となつて居て、此處で手続きが済んだ旅客は大廣間から各々別の通路を通つて大廣間と直角に飛行場に面して400米の長さで擴がる飛行機乗降口に出る。此の乗降口は旅客の利用する航空路別に別れて居て行先が書いてあつて、旅客は此處で目的地に従つて、異なる乗降口に至り、此處からプラットフォームに出るのであるが、外國行乗降口は中央部に國內行きの乗降口は左右兩翼に設けられてある。又乗降口の通路上は飛行場事務室になつて居て、プラットフォームに出入する飛行機の状態を此處から観測出来る様になつて居る。此のプラットフォームは世界で最初の掩蓋プラットフォームで、其の庇の奥行は45米で、16.5米毎に半熔接製鋼ウェブ式鋼製片持桁を置いて屋根を支へ、建物に近い位置には支柱があつて地上に連絡し、更に片持桁の内端を乗降口通路の建物に繋留し、其の重量は建物のプラットフォーム掩蓋と反対側の突出部の重量と平衡させてある。掩蓋の天井高さは12米あるからどんな飛行機でも此の掩蓋の中に充分入る事が出来る。現在の大型旅客機でも10臺以上は此の掩蓋プラットフォームの中に同時に收容出来るから、旅客は雨の日でも自動車を降りてから飛行機に乗る迄全然濡れる事が無い譯で、現在の各國の飛行場の施設とはまるで比較にならない。

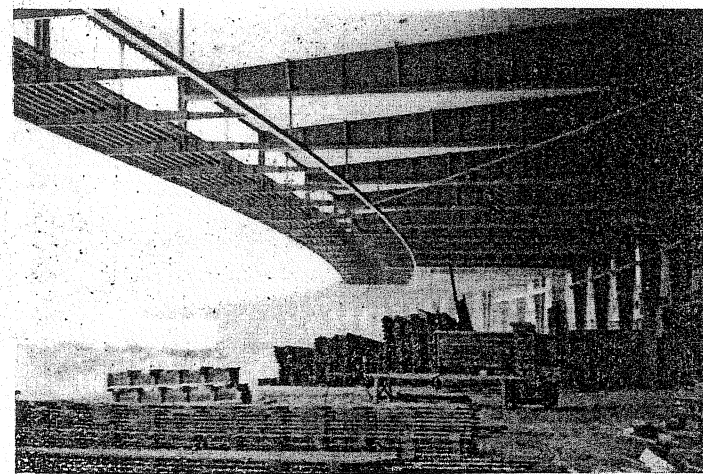
プラットフォームの左右には各500米の長さで飛行場を圍んで、プラットフォームと同様な構造の中央に柱のない格納庫が延びて居る。プラットフォームの中央に立つて、左右各750米に延びる此の大建築を眺めると其の壯大に打たれるのである。何處の國にもこんなやつもない大建築の飛行場はない。ルーブル・ジュエーの新航空港等を見た



第4圖 新テムベルホーフ航空港の建物の模型



第5圖 プラットフォーム完成後の状態を示す。乗降口よりプラットフォームに下りる階段に注意



第6圖 工事中の掩蓋プラットフォーム (昨年9月著者)

眼では想像もし得ない大きなものであらう。

格納庫は各數個に區切られ、動力で動かされる扉を別々に持つ様にするとの話である。

そして前述の乗降口通路の建物の突出部と此の

格納庫の反対側の突出部17個には、階段を設けて飛行場北側の新コロンビヤ街及び西側のペルリナー街から、直接格納庫屋上の見物席に上れるやうになつて居る。此の見物席は未完成であつたが實に65,000人の座席を有し、中央食堂から食事、飲料をサーブする事が出来る。

此の見物席は此の飛行場完成の曉に、毎年此處で行はるべき獨逸航空紀念日のページェントの場合に利用することを考へて居るとの事であつた。そして格納庫とプラットフォームの屋上全部を入れて100,000人の見物人を收容出来る。此のプラットフォームから東南を眺めると約1,000米の彼方に現在のテムベルホーフ航空港の建物が眺められ、新航空港は、此の建物は勿論の事、現飛行場170萬平方米とそして現飛行場と建物と新建築物との間の廣大な地域と更に現飛行場の南側の地域を含み、長軸の長さ2,400米、短軸の長さ1,700米の楕圓形の大飛行場となり其の廣さは320萬平方米と云ふ老大なものとなるのである。新舊建物の間には2萬人の死者を埋めてある廣い墓地があり之をも改葬する事となつて居る。

斯くて從來も市中航空港として其名を謳はれて居た便利な飛行場が廣さと施設の點でも世界一なる譯である。

飛行場の周圍には飛行機發着點から格納庫或は

プラットフォーム迄地上誘導を行ふ爲に幅75米の石畳舗装路が設けられ、格納庫とプラットフォームの前面では此の舗装路の巾を300米とつてある。その外側には更に6米巾の自動車用道路を設け、此の道路はノイケルンの貨物驛から分岐して長さ300米の隧道で大廣間の下を通る鐵道線路に連絡する事になつて居る。

誘導滑走路は飛行場に向つて百分の一の勾配をなし又飛行場の東南長軸の一端に當る所又短軸の両端には廣い舗装部分が設けられて居る。飛行機發着場は全て芝生であつて市中に在る飛行場である事を考へ市民の保健上特に芝生に手を入れて埃の立たない様子を氣をつけるとの事である。一般に獨逸は砂地であるから飛行場の排水もよいし固さも適當であるからコンクリートの離着陸用滑走路は一般には使用されて居ない。

其他此の飛行場には燃料補給設備、煖房施設、非常時發電装置、夜間照明施設が完備する事は勿論の事、2,000臺を入れる祝賀會場自動車置場等の設備を用意して居る。

斯くの如き思切つて大施設を行ひ得たのは實に獨逸であるからだと思はせるのである。

即ちヒットラーは1935年現在のテムペルホーフ航空港が建設以來十年を経て將來狹隘となるべきを察し、子孫に残すべき大航空港の計畫を行ひ省參事官ザーゲビール教授に其の設計を行はしめたもので、ヒットラーの發案であればこそ斯くの如き大計畫が市中の民家や墓地迄もどんどん取拂つて進行し得たのである。

同教授はヒットラーの意を體し從來航空大臣ゲーリングの依頼に依つて設計した獨逸各地の飛行場の經驗を基として此の航空港の建設に着手したのである。

施工者はベルリナー・フルークハーフェン會社である。

現テムペルホーフ飛行場は1924年に出來上つた當時は一年間の飛行機發着數 1,000 回、又旅客は 1,700 人、貨物 18 噸と云ふ程度の閑散な業績であつたが1938年には 62,733 回の飛行機の發着を見乗降旅客數は 247,906 人、取扱貨物は 7,101 噸と云ふ莫大 數となつて居る。1939年の夏期には平均一日 1,500 人の旅客を扱ひ、又定期飛行機發着數は平均 108 回であり、最も多忙を極めた時には、一日實に 500 回の發着を見、燃料 75,000 立を消費して居る。

此の飛行場完成の暁には年平均一日 400 回即ち現在の平均一日 200 回の二倍迄の飛行機發着を餘裕を持つて行ひ得る豫定であるとの事である。

此の飛行場は丁度今年中に完成する豫定であつたが、今度の大戦の初期には軍用飛行場となつて一時航空港をラングスドルフに移したりした程であるから、工事は其後あまり進んで居ないであらう。

獨逸が將來の世界航空路の三大中心地は柏林、紐育及び東京であるとして、歐洲の航空路の中心たるべき抱負の下に此の大航空港を建設したのであるが、獨逸人の此の見解は全く首肯出来るのである。

扱我國の準備はどうであらうか。(15. 6. 16)

新刊紹介

日本航空發達史 (陸軍歩兵大佐 竹内正虎著)

學究的に、趣味的に、わが日本航空界の發達過程を詳述した良書である。収録された多數の寫眞も、得難いものが多く、この種の良書の殆んどなき今日、蓋しよき手引とならう。

(定價 4 圓 50 錢)

東京市日本橋區通2ノ4 日本橋ビル 相模書房

世界航空情報

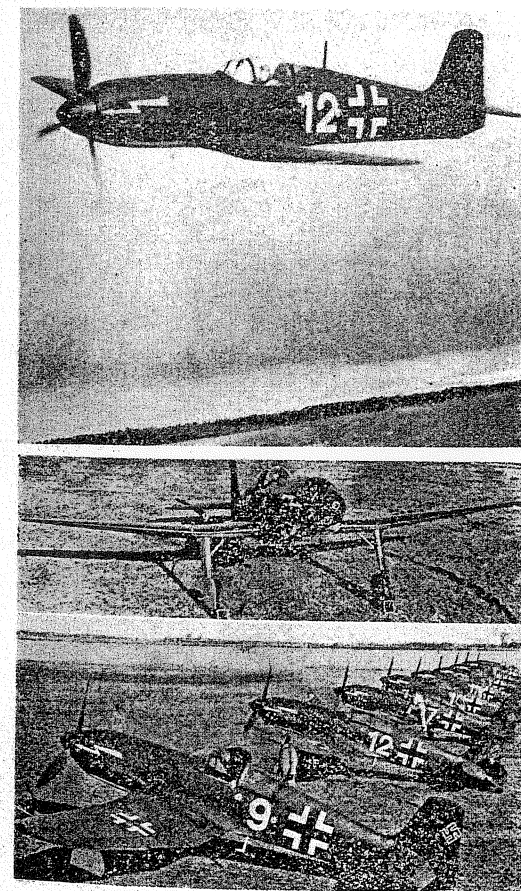
郡 龍 彦

新型機紹介

ハインケル He-113 型單座戦闘機(ドイツ)

製作: ドイツ、ロストツク市ゼースタート町、エルンスト・ハインケル航空機製作所。

機種: 全金屬製全片持式低翼單葉引込脚、單座戦闘機、平滑面仕上げ、構造の詳細は秘密とされてゐるか胴體は細長く操縦席は滑り戸式覆ひがあり全金屬製張殻式構造、舊 112 型は操縦席の覆ひのみが高く膨らんでゐたが 113 型で



ハインケル He 113 型單座戦闘機

は覆ひの後端はそのまゝ胴體成形の線となる如く改良されてゐる。

翼は單支柱式構造應力外皮で下げ翼は胴體と補助翼の間に裝備し、脚は内側上方主翼内部に引込まれる。舊型は外側上方に引込まれる式である。尾翼は片持式横安定板、縦安定板も全部金屬製である。

武装はプロペラー軸を通す 23 耗口徑機關砲 1 門とプロペラーの間隙より發射する大口徑の固定機關銃を 2 挺裝備す。その他無線裝備を有。

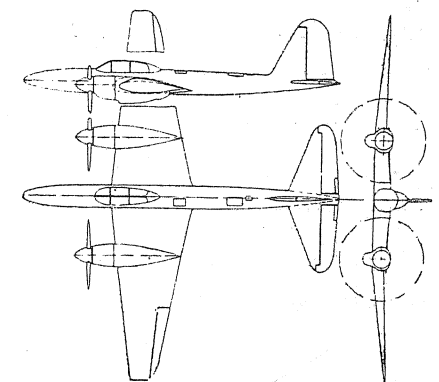
發動機は舊型のユンカース・ユーモ 210 型 670 馬力液冷式發動機をダイムラー・ベンツ DB-601 型液冷式發動機 1,150 馬力に代へてゐる。

要目: 翼幅 9.4 米、全長 8.185 米、全高 2.5 米、翼面積 14.5 平方米。

ヴァルタイー双發戦闘機(米國)

製作: 米國カリフォルニア州ドゥーニー市、航空製作會社ヴァルタイー航空機部。

機種: 双發單座戦闘機、全金屬製中翼全片持式單葉、引込脚、胴體は極めて細長く主翼取付部の厚さも左程違はぬ。ドイツの爆撃機 D-17 型の如く鉛筆の如き形状の胴體で



ヴァルタイー双發戦闘機

ある。發動機はアリソン液冷式 1,000 馬力 2 基を裝備す。武装は 20 耗以上の機關砲 4 門を胴體の機首部に裝備する。操縦席は胴體上部にあつて視界良好。尾翼は全片持式で縦安定板、横安定板共一枚である。